

居場所

ななな あなあ

「居場所なあなあ」からはじめよう!
ハラスメントのない学習・教育・労働環境を



「居場所なあなあ」は NPO アカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク (NAAH) が平成 30 年度、31 年 (令和元) 年度 大阪市 ボランティア活動振興基金からの助成を受けてはじめた事業です。

NAAH ではこれまでに学校、大学関係のハラスメントに関わる多くの相談を受けてきましたが、その中で発達障がいのある学生さんたちが様々な困難な状況に陥り、疎外され、傷つき、改善を求めていることを知りました。

発達障がいのある学生さんたちが楽しく生きがいを感じる教育環境は、すべての学生さん、そして教職員の人たちとっても快適な学習・教育・労働環境であることは間違いありません。

ハラスメントのない環境づくりを目標としておこなってきた「居場所なあなあ」のこれまでに 2 年間の歩みをお届けします。



特別企画「それって?発達障がい」 2018.8.10

「それって発達障がい?」 2019.6.1

穏やかな雰囲気、講義の感想や普段の困りごと、趣味の話などができました。「講義を聞いて、共感できることがたくさんあった。」「職場で面と向かって顔を見てコミュニケーションをしてもらえず寂しい。」「片付けができない娘に対してどうしたら良いかわからない。」などの声がありました。また、「スマホの影響で子どもの発達や母子関係が心配」との意見もありました。

「スタッフの先生がたがやさしくて、なあなあがとてもあたたかい雰囲気なので、できたら毎回行きたいけれど、他の習い事が重なっていて、なかなか行けないのが残念」「また参加したいと思っている」との感想がよせられました。

特別企画「こんなことで悩んでいます!」 2018.9.22

9月22日(土)14時より大阪私学会館で開催されました。大学・高校の時期的な都合や、突然の体調不良などで、参加された方は多くなかったのですが和気あいあいと楽しく談笑できたと思います。話し合いの中で感じたことをご報告します。

まず、人には思いもかけないいろいろなことで悩むのだということを変更して認識しました。大抵の学生なら自分のレポートがみんなの前で読まれたら、嬉しくて「もっと頑張ろう」と思えるでしょうが、中にはそれがかえってプレッシャーになってしまうこともあり、いいと思うことが逆に重圧とを感じる人もいることがあるということ。これは授業の中で心すべきところです。

また、学校によっては困っている人がせっかく勇気を振り絞ってカウンセラーの所に相談に行っても、そこからの手続きの煩雑さや連携の不備で、当事者や保護者が手探り状態で支援の方法を探して渡り歩かなければならないところもある、ということもわかりました。これからは大学・専門学校にもコーディネーターやいわゆるワンストップセンターのような組織を整備していかなければならないと実感しました。

言いたいことを言い、聴きたいことを聴き、少しでも笑顔になっていただければ嬉しいです。新しい方の参加もあり、徐々にでもこの波が広がってゆくことを願っています。(K)

こんなことで **なあなあ**
悩んでいます! 特別企画 #2

無料

2018年 9月 22日(土)
14:00 - 16:30

「コミュニケーションが苦手な付き合いが人といふなあ」
「最近に困った人がいてどうしたらいいのかわからない」
「毎日が重い...これってハラスメントかなあ」
などと感じることはありませんか?

職場所作りプロジェクト「なあなあ」のスタッフが、参加者と共に学校での困りごとや、毎日のしんどさについて話し合い、どうすれば楽になるのかを一緒に考えます。

生徒・学生だけでなく、家族・友だち・学校教職員・支援者など、いろいろな方の参加をお待ちしています。

講師 紹介

岡村 光浩
・神戸国際大学 保健教育センター 准教授
・NPO 法人 NAAO 代表 (発達障害をセクハラ対応) 理事

福別 尚子
・カンパニーグループ 人事部 産業カウンセラー
・看護師、認定心理士、日本 ILO 学校認定委員

川西 寿美子
・NPO 法人 NAAO 代表
・専門学校の講師、ハラスメント相談員

主催
NPO アカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク
職場所作りプロジェクト「なあなあ」 <http://www.naah.jp/>
【※ 2018年9月22日(土)開催(予定)】

参加 申込
naanaainfo@sunaao.com
申込の期日は、名簿に所定・定数(学生の場合)を置いてください。

場所
大阪私学会館 309号 大阪府大阪市東区東船場4-20

内容
14:00 ~ 参加者の皆さんとの話し合いの会

講演会「ライフサイクルに沿った発達障がい支援」 大西貴子先生(奈良教育大学准教授) 2019.2.9

2月9日、「ライフサイクルに沿った発達障害支援」と題して奈良教育大学の西大貴子先生の講演会が開催されました。なぜNAAH(アカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク)で発達障害の講演会をするの?と思われる方もみえると思います。NAAHで発達障害の方からハラスメント相談を受けることがあり、大学や高校など教育関係者が発達障害を理解することで被害をなくそうと今回の特別企画となりました。

発達障害についてASD(自閉スペクトラム症)、ADHD(注意欠陥・多動症)、SLD(局限性学習症)について説明があり、生まれつき脳の発達の仕方が独特で社会生活でつまづきやすいが、周囲の対応や教育環境によって生き生きと力を発揮できる。また乳児期・児童期・思春期・青年期・青年期とライフサイクルに沿って特徴と支援については講師自身が幼稚園や大学での相談現場での臨床経験からのお話でとてもわかりやすかったです。

この日は三連休の初日にもかかわらず多くの方が熱心に西大先生の話に耳を傾けていました。質疑応答TIMEでは抱えていることをなんとかしたいという強い思いを感じる質問ばかりでした。

履修登録ができない、講義室に入れない、昼食をどこで食べたらいいかわからない…など、「そんなことは当たり前。なんでできないのだろう。」と思うようなできごとが大学の中で問題となってきて10年以上になります。全国の大学で発達障害支援センターが設置され対応が進んでいますが、始まったばかりです。その人その人の持っている特徴や問題を解決していくためにどうしていったらいいかを本人と周りの人と一緒にして達成して自己成長していけるようになればと思う。まだまだ誤解されやすい状況のなかで今回の企画はハラスメントの被害者にも加害者にもならないためにも意味がありました。

私の恩師がよく言っていたことを思い出します。環境と条件を整えば人は育つ。
(KT)

ライフサイクル ななあ に沿った 発達障がい支援 特別企画 #4

無料

2019年2月9日(土)
14:00 - 16:30
(開場 13:30)

講師紹介
大西 貴子 Ms.
・奈良教育大学特別准教授 教育学部
・発達障害・認知症支援センター主任
・専門分野 発達障害心理学

参加申込
naanaainfo@sunao8.com
当日参加も可能ですが、できればお名前・所属を載せてお申込み下さい。
※当事業費の方については交通費補助(上限 3,000円)があります。

主催
NPO アカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク
会場所任プロジェクト「ななあ」 <http://www.naah.jp/>
【〒600-0000 大阪府大阪市中央区南船場4-1-10】

会場
大阪私学会館 301号
大阪府大阪市東区東船場6-20
TEL: 06-6620-2731
JR 東区線「大浜駅北口徒歩」下車 徒歩2分

NPO アカデミック・ハラスメントをなくすネットワークの一端としておこなわれている「会場所任プロジェクト ななあ」では、このたび特別企画として、臨床心理士の西大貴子先生を講師としてお招きし、講演会を開催いたします。

西大先生は、発達障がいの特性による様々な困り感をもつ方々からの相談に応じ、ライフサイクルに応じた具体的な支援をされています。また大学の教員として、特別支援教育を目指す学生さんへの指導や現場の教員への指導、幼稚園でのキーンダーワンセラーなど多方面で活躍されています。

今回の講演では、西大先生が行われているこれまでの活動を通して、専門学校生、大学生、大学院生そして社会人となってからのサポート、周囲の人たちの関わり方についてのお話を伺い、共に生きる社会づくりを考えたいと思います。

特別企画「大学って、こんなところ」2019.3.9

大学入学後の生活に不安を感じる高校生や保護者に向けて、大学の現状や新入生が大学生活で直面する困難や、大学における発達障がい学生への支援などを紹介し、アドバイスをおこないました。

講演会「発達障害のある大学生への支援」2019.11.2 西村優紀美先生（富山大学教育・学生支援機構）

富山大学での取り組みを、事例をもとに具体的にわかりやすくお話してくださいました。その中で、「対話によって育まれる自己理解」「意思表示・意思決定のための支援」の必要性について、また、学生さんが「語る機会を持つこと」「自分の特性や必要な配慮を知る」などの経験の場の保障の大切さを教えていただきました。

その後の質疑応答では、たくさんの質問やご相談があり、ひとつひとつ丁寧にお答えいただきました。

講演会後のアンケートには「参加できてよかった」「またの開催を待ち望んでいます!」などのよこびの声が多くありました。

NAAHの基本とする「発達障害のある学生にとって快適で充実した環境で学ぶことのできる大学・学校は、すべての学生にとってもハラスメントのない良好な学習環境であること」を学ぶことができました。



クリスマス会企画 2018.12.15

突然現れた私などを、とても丁寧に暖かく迎え入れていただいたことにとても感謝しております。ご用意いただいたご馳走を遠慮無くむしゃむしゃいただいたり、交通費までいただいて。しかも、好き勝手に長々としゃべってしまって。あとで考えて、申し訳なかったなあと反省しております。どれもこれも、皆さん方の揺るがぬウェルカムの姿勢について甘えちゃったということかなと思います。

障害のある方やひきこもりの方々等、社会的に弱い立場の人たちは、とても繊細で傷つきやすいもの。皆さん方の、全てを許容し受入れるという一貫したスタンスが、そうした人たちを安心させ居心地の良い場となり、人への信頼をエネルギーに変えて歩み続けることにつながるのだと信じます。

今後の皆さん方のご健勝と取組の充実とさらなるご発展を祈ります。また、機会を見つけて突然行かせてもらうかも。その時はどうかよろしく願います。年の瀬となりました。ではよいお年を。ありがとうございました。

学習会「スマホと子育て」 2019.9.7

ある保健師さんから、「発達障害は増えているのでしょうか?」「スマホ育児が子供の発達に影響しているのでは?」などのご質問をいただき、勉強会を開催しました。スタッフ一同勉強を重ねる中で、子育てを母親もしくは父親だけに任せきりにし孤立させないよう、地域で子育てをしていける地域包括支援の取り組みの必要性を感じました。居場所なあなあもその一端を担えることができればと思います。

学習会「それって発達障害? 原因追求の明と暗」 2020.2.15

発達障害というネーミングの広まりにより、自己理解が深まり、生きづらさの理由がわかり、ほっとした方がおられる一方で、レッテルを貼られたり、配慮を求めても排除されてしまったりと正負の面があること、原因追求することの明と暗を取り上げました。発達障害は、本来病気や障害ではなく、個性・特性であること。環境に適応できれば発達障害ではないこと。その人が適応できる、その人らしく生き生きと生きていける環境を用意することの大切さを学びました。会が終わった後、笑いヨガをやってみました。

参加者のかたが「笑いヨガ」を行なって下さいました。
インドの本場で学ばれたそうです。
ほほほ、ハハハハとまねをしているうちに、
不思議と自然と楽しくなりました。
おかげさまで、心もからだもほぐれました。

いけ花やってみよう会 2019.1.13

これは
誰の作品かな？



私のではありません。
私のは、もっと...

(昼の)お月見会 2019.9.21

中秋の名月にちなんで「お月見の会」を開催しました。計画ではプロジェクターで満月を映し出す予定でしたが、パソコンが更新作業をはじめてしまって月夜の光景を映し出すことが出来なかったため、急ぎよ、満月の写真を数枚印刷して、壁に貼り、琴の音をBGMで流して雰囲気を出しました。

主役の月見団子は、天神橋筋商店街のお店の作り立てのもので、おはぎもありました。いけ花は、いつも生け花の先生役をしてくださっている参加者のかたが生けてくださいました。

お月様と美しい生け花を見ながら、舌を満足させ、参加者の方それぞれが得意な事、趣味や海外旅行のことなど、話にも花が咲き、穏やかなとても楽しいひと時をすごすことができました。

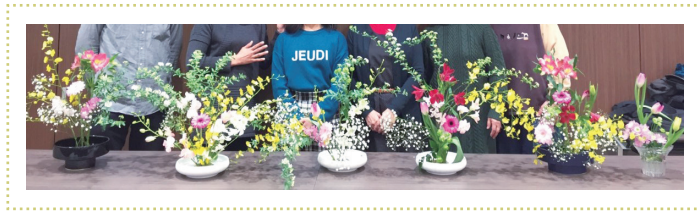
参加者の中に茶道の経験のある方が数名おられることもわかり、今度、お茶を点てながら、お茶の時間を楽しめたら良いなあ…との話になりました。



「居場所なあなあに参加して」

私は、なあなあに参加して心がとても楽になりました。
どんな話でも聞いてくださるので嬉しかったです。
そして、私の発言で生け花を教えることになって、
色んな方に楽しくお喋りしながら教えてるうちに、
やりがいも感じて、
本当に、なあなあに来てよかったって強く思いました！

Mさん



期待通り、いえそれ以上でした。
先生方の包み込む優しさと品格と癒しのあふれる場。
ここならなんでも話せる、話したいと思えるのではと感じました。
学校でも家庭でも地域でもない、この第三の居場所で、
たくさん吸収して、元気と勇気を持って帰れたら最高ですね。
オプション企画として、この一年、幸せで願いが叶いますようにと、
願をかけて皆でハーブのしおり作りをしました。
ご協力ありがとうございました。
皆さんの個性と才能がキラリと光りました。

Tさん



【スタッフの声】

稲別尚子

はじめまして、居場所なあなあスタッフの稲別尚子と申します。

元天理よろづ相談所病院正看護師の産業カウンセラーです。高校生・大学生・社会人2年目の娘の母親です。現在は、23年前に夫が得意の技術で立ち上げた会社の経営管理をしながら、発達障害のある方々へのカウンセリングや相談支援活動を行っています。

エジソンのような特性を持つ夫との家庭生活・会社経営は、数えきれないほどの様々な問題が生じていました。疲労困憊していた10数年前のある日、「この本にお姉ちゃんの苦労と努力が全部書いてある!」と妹から一本の電話がありました。その本は、故佐々木正美先生の「大人のアスペルガー症候群」でした。私はその時はじめて「発達障害」という言葉に出会いました。今までの夫との様々な場面の謎がとけたような瞬間でした。

その後、無我夢中で、発達障害について、心理学や産業カウンセリング、経営管理・中小企業経営論などを勉強してまいりました。

おかげさまでこの春、日本LD学会の認定資格「特別支援教育士」になることができました。

私自身当事者の家族として、何を頑張っても上手くいかないことだらけ、つらく苦しい時期が大変長く続きましたが、その間たくさんの先生方に助けていただきました。

なすすべなく暗中模索する私にいつも寄り添い、一緒に考え続けてくださった先生がたのように、私も同じような状況におられるどなたかのお役にたてれば有難いと願っていたころ、居場所なあなあのスタッフへのお声をかけていただきました。

昔、看護・医療の分野いた私は、全く知らない会社経営の世界にぽんと放り込まれ、日々問題解決におわれながら、看護の現場から仕方なく離れてしまったことを長年悔やんでいました。でもある時、「あなたが今まで経験してきたことが、発達障害の方々への支援の上に全部役に立ちますね。」と声をかけられ心が楽になりました。小規模ながらも企業・経営者として、当事者の家族として、たくさんの苦い経験をさせてもらえたからこそ、発達障害の方々への支援の上にお役にたてることがあるかもしれないと思えるようになりました。

私は、この2年間、居場所なあなあのスタッフにならせてもらい、とても幸せでした。



私にとっても居場所ができたように感じました。

居場所なあなあにご参加くださる皆様は、とても優しくあたたかく、いつも他の方の話にじっと耳を傾けてくださいます。

そのような雰囲気の中、安心して、誰にも言えなかった気持ちを打ち明けて下さり、本当の気持ちや悩んでいること困りごとを語ってくださいます。自然とあたたかな心の交流や話し合いの輪がうまれます。

「気持ちが楽になった、真剣に聴いてもらえて嬉しかった。」と言ってくださいます。

たとえ何も問題が解決できなかったとしても、カタルシス効果(心の浄化作用)につながっているように感じます。

学生や若者の皆様はじめ保護者・学校の教職員、支援機関の方など、様々なお立場の方々にご参加頂け、こんなに穏やかに、一緒に話し合えることは、居場所なあなあの強みではないかと思えます。

なかなか誰にも相談できず、一人で頑張り続けておられる学生さんや若者の皆さんに、安心してお話しいただけるよう、また日々の困りごとや戸惑っておられることをどうしたら良いのか一緒に考えさせてもらえるよう今後も努力していきたいと思えます。

学生さんや若者の皆様には、近所や親戚のおばちゃんのように、保護者の皆様には、ママ友のように気軽にお話いただければ有難いです。

そして、参加者の皆様が好きな事や得意なことを生かして、先生になってくださる企画を開催できる事も居場所なあなあの魅力ではないかと思えます。

私は、あるろう者の参加者の方が手話でお話されているのを見て感動し、その方と手話でお話できるようになりたいと思い、一年間、地元の市町村の手話奉仕員養成講座に通うことができました。そのろう者の方がご参加くださるたびに、私に手話を教えて下さいます。私に手話を習うきっかけを与えて下さり、手話の先生になってくださり、心から感謝しています。

最後に居場所なあなあには、様々な立場、様々な経験を積むスタッフが複数おります。居場所なあなあスタッフは、学校や職場での問題に詳しく、長年、若者学生への相談支援活動、ハラスメント相談や発達障がいの特性や生きづらさを抱える方々へのサポートを行っています。きっとお役に立てることがあるように思います。

「発達障害のある学生にとって快適で充実した環境で学ぶことのできる大学・学校は、すべての学生にとってもハラスメントのない良好な学習環境であると考えます」

「すべての人に快適な学習・教育・労働環境を!」とのNPO NAAH代表理事の言葉を目標に、今後も努力してまいりたいと思えます。ぜひ安心してご参加ください。

以上

【スタッフの声】凸凹と共に生きる居場所「なあなあ」 居場所「なあなあ」スタッフ

岡村 光浩

(神戸芸術工科大学准教授芸術工学教育センター准教授、
NPO法人DDAC(発達障害をもつ大人の会))理事)

はじめにー参加のいきさつ

筆者は日本大学で国際交流担当の職員を務めたのち大学国際交流担当者のNPO¹ 役員を経て、現在は神戸芸術工科大学で英語教員を務める²傍ら、成人発達障害の当事者団体であるNPO法人DDAC(発達障害をもつ大人の会)³の理事兼ソーシャルネットワーク担当⁴を務めている者である。

筆者は2016年2月に本務校のFD・SD⁵研修会に御輿久美子代表がご講演に見えたのがきっかけでNAAHに入会し、ごあいさつの折にDDACのことをお伝えしておいたところ、居場所「なあなあ」プロジェクト始動時にお誘いをいただき、即答でスタッフ入りして、現在に至っている。

日常的な居場所「なあなあ」の活動内容については「居場所『なあなあ』のあゆみ」にも記載されているので、本校では筆者の考える居場所「なあなあ」の意義などについても考えながら述べたい。

「居場所」について

人が「労働市場から追い出され、社会の仕組みから脱落し、人間関係から遠ざかり、自尊心が失われ、徐々に社会から切り離されていく」、「ただ単に人が孤立していることを問題としているのではなく、社会が人を追い出していくさま」(原文は下線部傍点)は「社会的排除」と呼ばれるが(阿部2011:No.41-45)、それが極限まで達したとき、人は「居場所」、すなわち「そこに自分がいることが当然であり、周りもそう認めている場所」(No.1125-1126)「安心して休める場所」「そこにいてもよい」と社会から認められている場所」(No.1153-1154)さえも失ってしまう。

人には、「居場所」が必要なのだ。

より具体的な「居場所」のイメージとして、藤原靖浩(2010)は、先行研究から「居場所」の定義についての言及を抽出し、以下の10項目に抽出した。すなわち、

- ① 社会生活の拠点となる物理的な意味での場
- ② 自由な場
- ③ 居心地がよく、精神的に安心・安定していられる場もしくは人間関係
- ④ 一人で過ごせる場

¹ 特定非営利活動法人JAFSA(ジャフサ) - 国際教育交流協議会 <http://www.jafsa.org/>

² 岡村光浩 | 神戸芸術工科大学 https://www.kobe-du.ac.jp/faculty_member/okamura-m/

³ NPO法人DDAC(発達障害をもつ大人の会) <http://www.adhd-west.net/>

⁴ Facebook: <https://www.facebook.com/adhdwest> / Twitter: @adhdwest <https://twitter.com/adhdwest>

⁵ Faculty Development(教員研修)・Staff Development(職員研修)

- ⑤休息、癒し、一時的な逃避の場
- ⑥役割が与えられる、所属感や満足感が感じられる場
- ⑦他者や社会とのつながりがある場
- ⑧遊びや活動を行う場、将来のための多様な学び・体験ができる成長の場
- ⑨自己の存在感・受容感を感じさせる場
- ⑩安全な場

このような場が求められているのである。

筆者自身は成り行きで居場所「なあなあ」においてはホストする側であり、(曲がりなりにも専任の大学教員である以上)世間では「勝ち組」と呼ばれるのだろうか、と思う一方で、「アーティストの卵と発達凸凹仲間を応援する大学一般教養の英語教員で、80代後半で要介護の母を抱える50代独身の一人息子」の自分も、これ以上世の中の「弱肉強食」化が進めばいずれ「殲滅対象」になるのだろうかという危機感、あるいは焦燥感を常に抱えながら、自分自身と守るべき者を守るための力を少しでも身に付けるべく、あるいは本務校の学生や居場所「なあなあ」参加者のみなさんがそうできるためのお役に立てればと、研鑽に励む日々である。

居場所「なあなあ」について

居場所「なあなあ」では、2018年6月より、毎月2回の居場所「なあなあ」を開催している。通常はテーマを決めない「おしゃべり会」で、参加者同士で自己紹介した後は、それぞれの日常や悩み事・相談事を話し合う。

当事者会のピアミーティングにも共通する雰囲気があるが、スタッフ側は筆者(大学教員・成人発達障害当事者会理事・国家資格キャリアコンサルタント)の他、アカデミック・ハラスメント、学校におけるパワー・ハラスメント／セクシャル・ハラスメントなどの相談対応や関連したテーマでの講演の経験豊富なNAAH代表(元大学教員)と専門相談員、特にSOGI/LGBT関係の相談経験が豊富なNAAH理事(元専門学校教員)、筆者と共にプロジェクトに招聘された、アスペルガー当事者である夫と娘(大学生)の母親でもあるカウンセラー(認定心理士・産業カウンセラー・特別支援教育士)といったメンバーで、参加者の相談相手になったり、参加者同士の交流をファシリテートしたりする。

参加者に特別な出来事(海外研修など)があった時には急きょ報告会になったりすることもあり、定例の「おしゃべり会」やさまざまなイベントを通じて、学校・職場で生きづらさを抱えながら生活したり、登校(出勤)できず引きこもったりしている若者に対し、(不安感も含めた)自分の「ありのまま」を出せる空間を提供するべく活動している。年に複数回はスタッフや外部講師により、発達障害や学生支援関連等のテーマでの講演会や勉強会も行っており、筆者が講師や話題提供を担当することも多い。

参加者は大学生に限定している訳ではなく、高専生・専門学校生や進学を控えた高校生、それぞれの保護者や教職員、その他若者支援に関わる仕事の方の参加も多い。参加資格を発達障害関連に限定してはいないが、確定診断の有無を問わず、

発達障害当事者本人や、家族・担当学生に支援を必要とする人がいる比率は高い。聴覚障害がある若者も定期的に参加し、参加者を相手に即席の手話教室になることもあれば、生け花の心得のあるリピーターから参加の連絡があった時には生け花教室になることもある。

特別企画での話題提供について

上記のとおり、通常の「おしゃべり会」のほか、特別企画としてミニ勉強会や講演会を行ったりもした。外部の講師を講演会としてお招きした会については別項をお読みいただくとして、筆者が担当した話題提供の演題を記しておく、

- 2018.8.10 <特別企画「それって発達障がい？」>
「凸凹を生きる、凸凹と生きる－大学で考える発達障害－」
(話題提供)
- 2018.9.12 <特別企画「こんなことで悩んでいます！」>
「凹と折り合いをつけ、凸を研ぎ澄ませて突き抜ける」(話題提供)
- 2019.6.1 <ミニ学習会「それって、発達障がい？」>
「凸凹を生きる、凸凹と生きる－大人の発達障害－」(ミニ講義)
- 2019.9.7 <勉強会「スマホと子育て」>「世界的ベストセラー『サイバー・エフェクト 子どもがネットに壊される』を読んで」(話題提供)
- 2020.2.15 <特別企画「それって発達障害?～原因追求の明と暗～」>
『それって発達障害? 原因追求の明と暗
－さまざまな闇、さまざまな光－』(話題提供)

筆者が所属するDDACでは、杉山登志郎(2011)の「発達凸凹」の概念を全面的に採用している。すなわちアスペルガー症候群／自閉症スペクトラム・ADHD(注意欠如・多動性障害)・LD(学習障害)等の発達障害のすべてを一律に「障害」と決めつけることなく、「認知に高い峰と低い谷の両者をもつ子どもと大人」(杉山2011)、言い換えれば「能力の高い部分と低い部分の凸凹が大きい人」(発達障害をもつ大人の会2013:4)と捉え、当事者と社会がそれぞれの違い・個性に自分たちにできる配慮をもって歩み寄る(適応障害を防ぎ、社会生活に支障を来すほどの「発達障害」を回避する)ための前向きな概念である。筆者の「居場所」活動においても、同様のアプローチを心がけて行動するようにしており、直近の回からの流れで内容は毎回異なるが、話題提供も基調としてはその精神で行っている。

おわりにー居場所づくりのこれから

内閣府(2019)は3月、ひきこもり状態にある40歳以上64歳未満のひきこもりの人数を61.3万人と推計した⁶。居場所を支援・ファシリテートする側にあっては、発達障害や学生(若者)支援のあり方についての知識を学び続けることは当然として、異なる属性を持つ当事者に興味を持ち、しかしリスクを忘れずに、率直なコミュニケーションを心がけながら、それぞれの当事者が能力を発揮するための選択肢やアイデアを提供することで、当事者が自己決定を行っていけるよう支援していくことが期待される。

⁶<https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/life/h30/pdf/s2.pdf> p.11

参照・参考文献

阿部彩(2011)『弱者の居場所がない社会ー貧困・格差と社会的包摂』 講談社(講談社現代新書)、Kindle 版

杉山登志郎(2011)『発達障害のいま』講談社(講談社現代新書)

内閣府(2019)『生活状況に関する調査(平成30年度)』

<https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/life/h30/pdf-index.html>

発達障害をもつ大人の会(DDAC)(2013)「発達凸凹活用マニュアルー職場環境を改善しよう」発達障害をもつ大人の会

<http://consul.piasapo.com/wp-content/uploads/2013/report/manual.pdf>

藤原靖浩(2010)「居場所の定義についての研究」関西学院大学『教育学論究』2, pp.169-177, <http://hdl.handle.net/10236/6580>



今後の活動予定

☆ 「居場所なあなあ」はこれからも継続して活動していきます！

☆ 令和2年度からは新企画「居場所ぶつぶつ」を開始します

発達障害の特性のある学生への付き合い方や指導の悩みなど抱えている教職員への支援(学校・大学内では話しにくいことを、安心して悩みや困りごとを話せる場の提供)です。もちろん、守秘義務は守ります。

2020年度行事予定

4/18	居場所なあなあ	おしゃべり会
5/3-5	教職員のための発達障がいとの付き合い方で 何でも安心して言える・相談できる居場所ぶつぶつの開催	
5/16	居場所なあなあ	おしゃべり会
6/6,20	居場所なあなあ	おしゃべり会
7/4	学習会「これって、発達障がい?!」開催	
7/18	居場所なあなあ	おしゃべり会
8/1	居場所なあなあ	おしゃべり会
8/29	西村優紀美先生(富山大学教育・学生支援機構 准教授)講演会	
9/19	居場所なあなあ	おしゃべり会
10/3	「昼のお月見会」(各地の月見団子、生け花と共に)	
10/17	居場所なあなあ・居場所ぶつぶつ	合同おしゃべり会
11/29	居場所なあなあ	おしゃべり会
12/12	居場所なあなあ・居場所ぶつぶつ	合同クリスマス会
1/9	新年会	
1/23	居場所なあなあ	おしゃべり会
2/6	居場所なあなあ	おしゃべり会
2/20	特別企画「大学ってこんなところ」学習会及び相談	
3/6	居場所なあなあ・居場所ぶつぶつ	懇親会

居場所なあなあ参加申込み、問い合わせ先:naanaainfo@sunao8.com

会計報告

平成30年度

収入:大阪市ボランティア活動振興基金より500,000円の助成

支出:大阪市ボランティア活動振興基金 500,000円

NAAH自己資金より 281,518円 (合計781,518円支出)

平成31(令和元)年度:

収入:大阪市ボランティア活動振興基金より500,000円の助成

支出:大阪市ボランティア活動振興基金 500,000円

NAAH自己資金より 100,000円支出予定



特定非営利活動法人
アカデミック・ハラスメントを
なくすネットワーク
N A A H
Network for the Action against Academic Harassment

編集 □ 御興久美子, 嶋田伊都子 発行日 □ 2020年3月25日
発行 □ NPO アカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク (NAAH) 事務局
〒530-0044 大阪市北区東天満2丁目9-4 千代田ビル東館 507号室
MAIL : office@naah.jp / TEL : 06-6353-3364 / http://www.naah.jp